

日本救急医療財団の活動報告

橋本 昌男 事務局長

2021年10月中旬から12月上旬までの財団の活動について報告します。

総務部門に関する報告

平田 真教 総務部

1. 第3回新型コロナウイルス感染症に係る検疫所宿泊療養施設における保健医療業務支援に関する委員会について

12月8日(水)14時30分からWEB会議方式により「第3回新型コロナウイルス感染症に係る検疫所宿泊療養施設における保健医療業務支援に関する委員会」を開催しました。

今回の委員会では、継続となった検疫所宿泊療養施設の保健医療業務支援の現状を確認するとともに、今後の対応について検討を行いました。

支援の延長期限を12月末に迎えるものの、収容者数減少の目途がたたないこと及び新たな変異株の感染拡大等から、厚生労働省より再度継続要請があり、関係学会と相談しながら令和4年3月末まで支援を継続することとしました。

研修研究部門に関する報告

風間 和則 研修研究部

1. 令和3年度救急医療業務実地修練等研修事業について

○ 保健師等救急医療指導者講習会

令和3年11月29日(月)から11月30日(火)までの2日間、オンライン(Zoom)にて保健師等救急医療指導者講習会を開催しました。

本講習会は、保健所等の行政機関又は公共機関に勤務する保健師等を対象とし、地域における救急蘇生法等(乳児・小児の応急手当等を含む)に関する普及方策等の企画・運営を行う者の養成を図ることを目的に全国から33名の受講者が参加されました。

講習会の内容は、①地域包括ケアシステムと救急医療、②災害医療における保健所の役割、③災害医療コーディネーターとの連携における保健師等の役割(WS)、④新型コロナウイルス感染症対策について(WS)、⑤心肺停止事象が公衆衛生に及ぼす影響と救命の連鎖、⑥乳児に対する心肺蘇生法指導ツールと実習、⑦事故予防(総論)、(各論)、⑧学校保健と救急蘇生法指導、⑨母子保健と救急蘇生法指導(心停止予防・事故防止を含む)(WS)を行い、ワークショップにおいては、Zoomのブレイクアウト機能を使用し、活発な意見交換と受講者自身による体験を交えた議論により受講者の相互間での連帯感が深められ大変有意義な

講習会となりました。

なお、今年度の救急医療業務実地修練等研修事業については、新型コロナウイルス感染症を踏まえ初めてのオンラインによる研修となりましたが、研修実施にあたっては、「Zoom 操作マニュアル（受講者用）」等を作成し、事前に受講者に配布するなど研修準備を進めるとともに、接続等について受講者からの問合せにも対応できる体制を整えたことにより、支障なく研修を終了しました。

○ 病院前医療体制における指導医等研修（初級者）

令和3年12月2日（木）から12月3日（金）までの2日間、オンライン（Zoom）にて病院前医療体制における指導医等研修（初級者）を実施しました。

本研修については、例年、大阪会場及び東京会場（各会場60名）で実施していましたが、今年度はオンラインによる研修により、1回の実施開催となりました。

受講対象者は、3年以上の救急臨床歴があり、①これからMCを始める医師、②現在も救急隊員への指導・助言を行っており、オンラインでも指示をしている医師、③救急救命士・救急隊員の病院実習に関して院内コーディネーター役となる医師、④二次救急医療機関において救急医療を担当している医師であり、全国から117名の受講者が参加されました。

研修の内容は、①救急医療とメディカルコントロール、②救急業務の担い手と医師の業務、③メディカルコントロールに関わる組織と法的根拠、④メディカルコントロールの現状と課題（WS）、⑤オンラインで行う指示、指導・助言（講義・WS）、⑥医師が出動する医療でのMC、⑦プロトコルの読み方・使い方（講義・WS）、⑧検証とフィードバック（講義・WS）、⑨病院実習における教育（講義・WS）を行い、ワークショップにおいては、Zoomのブレイクアウト機能を使用し、117名を16班に分け、講師とファシリテータ3名と共に、事前に各班にリーダー役の受講者を指名して実施し、活発な意見交換と受講者自身による体験を交えた議論により受講者の相互間での連帯感が深められ大変有意義な研修となりました。

なお、研修実施にあたっては「Zoom 操作マニュアル（受講者用）」等を事前に受講者に配布するなど研修準備を進めるとともに、接続等について受講者からの問合せにも対応できる体制を整えたことにより、支障なく研修を終了しました。

○ 救急救命士養成所専任教員講習会

令和3年12月13日（月）から12月17日（金）までの5日間、オンライン（Zoom）にて救急救命士養成所専任教員講習会を実施しました。

受講対象者は、(1)救急救命士の免許を有する者、(2)本講習会修了後も養成所の専任教員として救急救命士の教育に従事する者及び将来従事しようとする者、であり、全国から33名の受講者が参加されました。

研修内容は、①救急救命士の活動に必要な関係法規と救急救命士の処置内容の拡大の今後、②病院前医療MC体制の現状と将来像（講義・WS）、③救急救命士指導者にもとめられる素養と知識、④救急救命士に必要な教育技法（養成教育と成人教育の差異）、⑤救急救命士養成施

設教育体制の現状と今後の課題、⑥病院前医療体制充実のための課題の検討（WS）、⑦救急救命士に必要な特定行為プロトコールを実技で指導するための基礎知識（WS）、⑧高度シミュレーターを使用した特定行為プロトコールを検討する（WS）、⑨救急救命士に必要な研究方法の理解と種々の統計解析法の理解（講義・WS）、⑩救急救命士に必要とされる教育内容とカリキュラム編成について、⑪感染症対策について（新型コロナウイルス感染症対策を含む）、⑫救急救命士教育現場に必要なプレゼンテーション技法（WS）、について講義及びワークショップ（WS）を行い、ワークショップにおいては、Zoomのブレイクアウト機能を使用し、活発な意見交換と受講者自身による体験を交えた議論により受講者の相互間での連帯感が深められ大変有意義な講習会となりました。

なお、研修実施にあたっては「Zoom操作マニュアル（受講者用）」等を事前に受講者に配布するなど研修準備を進めるとともに、接続等について受講者からの問合せにも対応できる体制を整えたことにより、支障なく研修を終了しました。

2. AEDの内部データ利用・検証に関する作業部会について

AEDの内部データ利用・検証に関する作業部会については、令和3年11月8日（月）に第5回作業部会をWEB会議にて開催し、作業部会報告書（オートショックAED使用の検証体制の構築について）について検討を行いました。

今後は作業部会報告書の最終案を作成し、「非医療従事者におけるAED使用のあり方特別委員会」に諮ることとしています。